

私の酪農経営

久米郡久米町中北下 国米 弘二

私の所在地は久米郡久米町中北下三成で美作千代駅北西約1kmにある部落で概況は次の通りであります。

(1表) 部落概況

農家戸数	専	21戸	28戸
	兼	7戸	
	男	66人	142人
	女	76人	
耕地	水田	一毛	13町8反
		二毛	11町7反
	畑	2町1反	
採草地		3町6反	
山林		36町9反	

	29年度末				33年度末			
家族の状況	能力		労働日数		能力		労働日	
主	30才	1.0	220		主	34才	1.0	290
妻	29才	1.0	180		妻	33才	1.0	217
長男	6才				長男	10才		
次男	5才				次男	9才		
経営地	水田		7反8セ	1毛4.1反 2毛3.7反	水田 左に同じ			
	畑		5セ		畑		0.5反	
	採草地		4反		牧野		3.0反	
	山林		10反		採草地		4.0反	
家畜	和牛		牝	1頭	乳牛		成牝	2頭
	鶏			15羽			育成	1頭
農具	発動機		1台	カルチ	1	発重機		1台
	籾摺機		1	4台		カッター		1
	動力脱		1台		動脱		1台	
					リヤカー		1台	
					籾摺機		1	
				ダービンポンプ		1		

私は昭和21年復員以来父のもとで農業に従事して居りましたが家庭の事情で10年前に分家をしました。

当時は極度に物資の不足していた時代で農村は誠に暮しよい時代でした。

然し都市の復興につれて農村の景気も次第に後退

して来ました。

それに追打をかける様に29年秋の台風は私達農家に致命的な打撃を与え米の減収と和牛の暴落は農村不況に拍車をかけました。

此の不況が動機となり私達の部落に三楽クラブが誕生しました。即ち「楽しく働らき。楽しく儲け。楽しく暮らす」為に若い農民が手を繋ぎあつて「農家収入を拡大して経営の安定を計り以て地域社会の繁栄と個人個人の生活水準を高める」為に「クラブ」を結成して次頁の表のような経営改善計画と目標をたてました。

(2表) クラブ経営改善計画表

クラブ経営改善計画表	
労働配分計画	家畜の導入 水稻の早晩期栽培機械力導入
土地利用計画	輪作集約牧野
作付計画	適地適作適品種
肥料計画	堆肥の増産 (堆肥舎の改善)
家畜飼育計画	乳中 (1~2頭) にわとり (50~100羽)
飼料自給計画	和牛100% 乳牛70% にわとり30%
技術改善計画	生産技術の改良
販売計画	共同販売



私は此の計画を達成する為に昭和26年以来記帳していましたが簿記の整理を行い具体的に実行に移すことにしました。

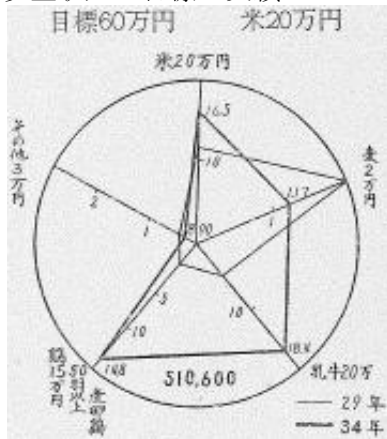
第一に考えましたのが次の表の様な現金収入の目標と支出の目標をたてることでした。

岡山畜産便り1960.04

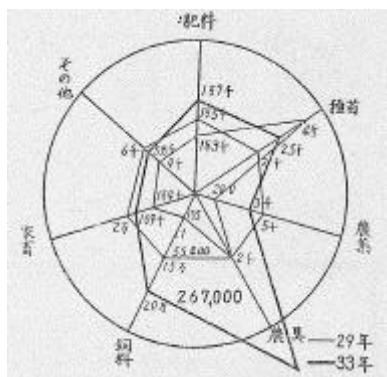
扱て以上の表の様な経営で総合的にも酪農部門に就いても何んの取柄のない実体ですから今回の酪農祭りの体験発表は再三お断り申上げましたが失敗談でもよいからとの事で、県下各地から見えて居られる優秀な酪農家の方々に混じっての発表は大変にはずかしいのですが、たとえ1人でも話を聞いてもらった人が私の失敗を他山の石として参考にして頂き将来の経営の何かの足しにでもして頂ければ……と経営の内の酪農部門の拙い体験と経営の実態を発表して皆様の御批判と御指導をおねがいしたいと思います。

私は酪農改善を始めるに当り次のような計画と心構を関係指導機関、先輩の方々の御指導や私自身の体験と雑誌等を参考にして立てて見ました。

(表3) 現金収入の目標と実績



現金支出の目標と実績



(一) 心構について

1. 酪農を農業経営内に溶けこませる。
2. 経済と時間と精神に余裕があるように先ず心の田を耕して一家揃って酪農に徹する。
3. 以上のように我が家の文化水準を高める為に儲ける酪農にすること。

(二) 実行計画について

1. 生産費の切下

2. 搾乳量を増大
3. 副生産物を増し活用

此の三箇条を忠実に実行することです。

(イ) そこで①の生産費の切下手段としては先ず自給飼料の増産です。田畑が少ないから面積当りの採草量及反収を飛躍的に上げることや山林原野の集約牧野化と開墾不可能地の草質改良等です。

次に経営に合った優秀牛の導入というのは「柔なしくて誰にでも搾れる牛」「大柄で持久力に富み草をしっかりと食べる牛」「鈍感で配合飼料で年中飼育しても平均して30石以上出す牛」つまり飼料給与養分の多少の過不足については何等故障がないと言う様な牛のことです。

(ロ) ②の搾乳量を増すことは先に申述ました様な牛の導入と飼育管理の合理化等であります。

(ハ) ③の副生産物を増し有効に活用する。

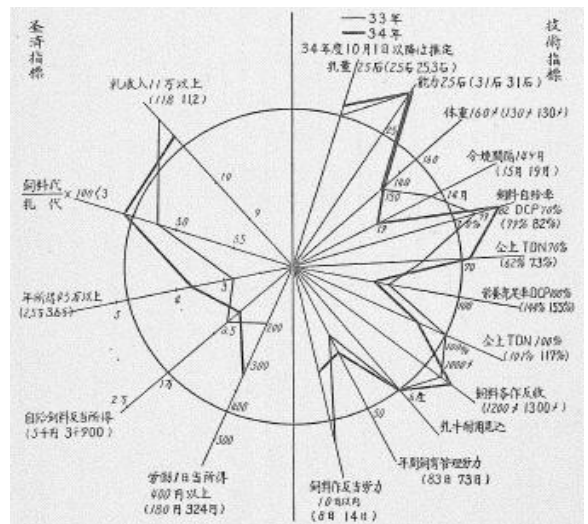
1. 毎年産犢
2. 肥料の内、厩肥特に肥効の高い牛尿等を合理的に施用するこの為には草刈等に行く時に乳牛の運動を兼ねてリヤ



カーにドラム缶を積んで行き草質草生改良に利用し或は裏作のイタリヤン等に雨降り前に生地のまま施す。

以上のような酪農経営改善の目標計画をたてました。計画通りに実施すれば儲かること疑い無しと言う事になりました。扱て私の理想と現実はどんなでしょうか？次の診断表がはっきりと示してくれています。

(4表) 農診断表 (搾乳牛1頭当)



岡山畜産便り1960.04

技術指標関係では

1. 乳量に於ては一応指標の25石以上を生産しておりますが、それに比較して体重が130貫でいささか軽量であり痩せています。

将来は前にも申述ました様に体重160貫位で能率がよくて泌乳能力も3-5石程度の牛にしたいと考えています。

2. 飼料の自給率については今少しDCPの少ないTDNの多い飼料作が考えられます。尚給与養分の過不足より見て栄養のバランスが蛋白過剰であり飼料作の検討と同時に飼料配合の合理化が必要です。

経済指標関係では

乳代に対する購入飼料の割合は漸次改善しつつあります。

尚自給飼料反当所得が33年より34年が下っておりますが34年は飼料作面積が増えたのに対して今夏の旱魃により集約牧野の生産量が目標より遙かに減収した為であります。

此の様な結果から67円50銭の牛乳生産費が46円に下ったのであります。尚自給飼料の質的内容の不足、管理労力の多すぎる点が問題であると考えております。

そこでこの対策として実施致しました、私の失敗談とも言うべき体験を申上げて見たいと思います。

先ず第一に自給飼料対策ですが牛に腹一杯喰わすと1日に24貫を喰うから1年1頭で8,760貫喰う訳ですが、私は1年1頭7,000貫の良質牧草を目標として第5表のような作付をしました。

(5表) 33年度作付表, 34年度作付表

地目	面積	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	適用				
田	北山 2.420	稲												イネ												レンゲ0.6セ	湿田			
"	花影 0.820	イネ												イネ												200貫 DCP1.8貫 TDN24.7貫	レンゲ0.4セ	湿田		
"	まわり 0.3	カンラン	イネ				カンラン				300 DCP TDN	40貫 16.8貫	ナンバ				イネ				イタリアン									
"	まわり 0.3	カンラン	イネ				カブラ(飼料)				エンバク				イタリアンエンバク															
"	まわり 0.2	そさい				イネ				イタリアン				畜舎敷地					畜舎											
"	当田 (トード) 1.0	レンゲイタリアン				イネ				麦				イネ				レンゲイタリアン												
"	2俵宛 0.4	同上				イネ				イタリアン				レンゲ(800貫)DCP16貫 TDN115貫				イネ				同上								
"	角田 0.625	同上				イネ				同上				1,200貫DCP24貫TDN1,728貫				イネ				同上								
"	上 0.6	小麦				イネ				同上				反収2,000貫(2回刈)				イネ				同上								
"	苗代 0.517	イネ												イネ													苗代			
"	下 0.5	裸麦				イネ				同上				反収2,500貫(3回刈)				イネ				同上								
牧野	北山 0.7	オーチャードラジノクローバー												前年に同じ 堆肥を入れなかったので殆ど荒廃																
"	花影 1.2	"												乾燥はげしき南面の傾しや地にてやや不良												カブラ				
"	西 1.1	"												堆肥を増施せし為良好西日当らず																
畑	花影 0.8	甘藷				大根				馬鈴薯				小麦				甘藷ヅル				小麦								
														レンゲ4畝												レンゲ9畝				重作 借用

岡山畜産便り1960.04

私はレンゲは嫌いですのでイタリヤンに反にレンゲ1升を混ぜて跡作や土の事を考えてやっております。詳細な説明は時間がありませんのでやめまして失敗談を続けます。

本年の様な夏季の高温乾燥による牧草の枯死や草の多い時期には多給する等の結果、秋冬の粗飼料の不足を起して糞を与えると言う様なことになりました。そこで私の体験から1頭当りの粗飼料年平均8,000貫給与を目標に何時でも牛が腹一杯喰えるようにすることが可愛い牛にも私達酪農家にとっても最も大切な事であります。

私の夏枯の対策としては理想を言えば青刈牧草類を腹一杯喰わせたいが仲々困難ですから余分に1頭当り約1反歩位の山林牧野に石灰窒素等を施して草生改良よりも草質改良をして質量共に野草の収量を向上し草の量を「コントロール」し保険的な役割をさせます。又集約牧野には毎年反当300貫以上の完熟厩肥を施し金肥も特にNPKの内加里の補給に重点を置いていきます。又すでに皆様も御承知の、草生の段階（根笹……ルーサン迄）を無視すると失敗致します。昨年迄は優良牧草が繁茂していても厩肥を施さない場合には必ず荒れてしまいます。

瘦地には悪い草が生え土を肥してくると良質の草が生えてくると言うことを身にしみて体験し同一牧野に於ても肥えたところと痩せたところでははっきりと草が指示してくれます。管理労力の節約につきましては先ず農林漁業金融公庫から融資を受け畜舎堆肥舎を理想的に設計して頂き建築して写真の様にスタンション、ウォーターカップ飼槽を高くしたりして大いに節減しています。特に飼槽を高くする事により牛が糞尿により汚れなくなり楽しく作業が出来ました。

次に33年度に於いて1日平均2時間からの労力を要していた牛乳運搬については北酪の御好意により集乳を近所にして頂き一躍10分の1に節減する事が出来大変喜んでおります。此の反面畜舎建築其の他の雑用に追われたり管理の不手際により1頭丈け妊娠が遅れており残念に思っています。又牛の導入も仲々困難なので、私の経営にあうように育成しており使役にも使えますし、来年からの3頭搾乳を楽しみにしております。

自給飼料反収を飛躍的に増収する為畜舎に隣接して3畝分に厩肥1,000貫、尿素1袋、草木灰、牛尿等を施しイタリヤンを反収5,000貫目標の研究をしています。

本年からは麦の水田裏作を全部止めてイタリヤン、レンゲを作るように作付しております。反収の説明は第5表にあり、此の様に改善していきますと酪農は楽しい酪農となり、明るい将来が必ず共に約束されると信じております。最後に私は現在嫁さがしを頼まれています但々農家には嫁の来てがなくて困っています。月給取でなければと言う声は10人中8人位迄ある現代の農村の娘の心理であります。農業は特に他産業に遅れており農村の真の文化建設には未だ未だ前途程遠きを感じられます。農業特に我々酪農家には競って嫁入を希望してくれる様な楽しい経営が1日も早く来ますよう願って私の発表を終わります。